

用件は便箋1枚に

大きな字で書け。

初めに結論を言え。

理由は3つまでだ。

この世に3つで

まとめきれない大事はない。

できることはやる。

できないことはやらない。

しかし、すべての責任は

このワシが負う。以上！

必要なのは学歴ではなく

学問だよ。

学歴は過去の栄光。

学問は現在に生きている。

手柄はすべて連中に

与えてやればいい。

ドロは当方がかぶる。

名指しで批判はするな。

叱るときはサシのときと同じ。

ほめるときは

大勢の前でほめてやれ。

仕事をするといふことは

文句を言われるといふことだ。

ほめられるために一番

良いのは仕事をしないこと。

しかしそれでは政治家は

つとまらない。

批判を恐れずやれ。

人間はそれぞれ

「ものさし」がある。

相手の「ものさし」に合わせて
十分考えないと失敗するぞ。

ウソをつくな。すぐバレる。

気の利いたことを言おうとするな。

あとが続かない。

お百姓衆を侮つて小馬鹿にするな。

シツペ返しされる。

メシ時にはしっかりメシを食え。

シャバにはいいことは少ない。

それを苦にしてメシが食えないようではダメだ。

腹が減っていては、

大事なときに戦はできない。

ゴルフは道楽じゃなく、

真剣勝負なんだ。

ひたすら歩いて体を責める。

汗を流す。

昨日よりスコアを良くする。

ミスは繰り返さない。

お前も宴会には

顔を出さなくていい。

みんな若いんだから羽目を外して楽し
ませてやれ。

宿舎に帰るバスも

手配しておくんだ。

相手の目を見て

大きな声できちんと話せ。

キヨロキヨロとして

相手の目を見ないのはダメだ。

声が小さいのは信用されない。

優れた指導者は人間を

好き嫌いしない。

能力を見分けて

適材適所に配置する。

肝心なのは大事を

任せられる人を見つけることだ。

大事なものは数字と事実だ。

ウソか本当か調べればすぐ分かる。

根拠に乏しい屁理屈は、

たちどころに化けの皮がはがれる。

法律というのは

実におもしろい生き物だ。

一行、一句、一語が

大変な意味を持っている。

だが肝心なのは

法律が生まれた背後のドラマだ。

総理なんてのは1回やれば十分だ。

血圧と血糖値の上がる商売で

身がもたない。

しかし幹事長はおもしろい。

あれは何回やってもいい。

役人の顔や人脈ぐらゐは

よく覚えておけ。

5年10年たつて

いつぱしの大臣になつたとき

「君、見たことないな」

では話にならない。

企業の社長になつたら、

できるとだけ早く

大きな仕事をやるべきだ。

「熟慮断行」もへちまもない。

「待てば海路の日和」では、

とても大きな仕事などできない。

世の中には働いてから休む人と
休んでから働く人がいる。

オレが上京するとき、

お袋がこう言った。

「お前は働いてから休む人にな
りなさい」

今日は今日で

タイムリーにものを片付ける。

明日には同じ問題に対して

別の方法が見つかるかもしれない。

そうなれば政策転換すれば

いいだけの話だ。

必ず返事は出せ。

たとえ結果が相手の思い通り

でなかったとしても「

聞いてくれたんだ」となる。

これは大切なことなんだ。

「勤労」ということを知らないで育つた人は不幸だと思います。

本当に勤労をしながら育つた人は人生に対する思いやりもあるし、人生を素直に見つめる

目もできてくるわけでありませす。

結婚する際、

妻に3つの誓いをさせられた。

「出て行けと言わぬこと」

「足げにしないこと」

「将来、私が二重橋を渡る日が

あつたら同伴すること」

どんなところに嫁に行っても
苦勞はするものだ。

大きい家では大きいように。

小さい家では小さいように。

どうせ苦勞をするのであれば、
やりがいのある苦勞をしなさい。

学生運動を繰り広げる

若者たちがいる。

経験が浅くて視野が狭いが

まじめに祖国の先行きを

考え心配している。

若者はあれでいい。

暗記教育は古く、

くだらないという人があるが、

暗記は教育のなかで

一番大切なことのひとつだと

私は信じている。

世の中は白と黒ばかりではない。

敵と味方ばかりでもない。

その間にある中間地帯、

グレイゾーンが一番広い。

真理は常に「中間」にある。

人にカネを渡すときは
頭を下げて渡せ。

くれてやると思ったら
それは死にカネだ。

祝い事には遅れてもいい。

ただし葬式には

真っ先にか付けける。

本当に人が悲しんでいるときに
寄り添ってやることが大事だ。

人の悪口は言わないほうがいい。
言いたければ便所で1人で言え。
自分が悪口を言われたときは
気にするな。

眠ることは死ぬことだ。

人間は毎日、死に、生きている。

その心境が分かってから、
すべてが怖くなくなつた。

田中角栄は話を聞かない、

と若い連中は言う。

賢者は聞き、愚者は語る。

もっと若い連中の話を聞いて。

鯉が飛び跳ねても良いが、

また池に落ちるとは限らんよ。

ワシが通りかかれば

池に戻してやるが

誰も来なかつたら

日干しになるだけだ。

義理とか人情というような

言葉が非常に古いものであり、

反現代的なものである

というようなことを

考えること自体がおかしいと思ひ。

人から受けた恩を忘れては
ならない。必ず恩返しをしる。

ただ、これみよがしに

「お礼に参上した」と

やってはいけない。

相手が困ったとき、遠くから、

慎み深く返してやるんだ。

男は飲ませて

握らせればすぐ転ぶ。

女は一度これと決めれば動かない。

候補者の周りに

女が群がれば間違はなく勝つ。

東大の教授は勲一等で、

義務教育の先生たちが

勲七等、勲八等というのは

本来、逆ではないか。

子どもは小さな猛獣だ。

できれば先生方の月給を

倍にしたい。

カメラの連中だつて

好きこのんで来てるんじゃない。

オレの写真が撮れないのでは

連中も商売にならんだらう。

手を挙げてやつても

いいじゃないか。

失敗はイヤというほど

したほうがいい。

そうするとバカでないかぎり、

骨身に沁みる。

判断力、分別ができてくる。

これが成長の正体だ。

一番大切なのは、

何よりも人との接し方だ。

それは戦略や戦術と違う。

人間は年に関係なく、

男でも女でも好きな人は

好きなんだ。

子孫に財産などを

残す必要はない。

子どもには教育、学問だけを

ミツチリ仕込めばいい。

親が残した必要以上の財産は

だいたたい子どもをダメにする。

人生で重要なのは「間」だ。

イノシシのように

一本調子なのはうまくいかない。

よく人間を観察

しななければならない。

臭い飯というのは

刑務所暮らしの飯じゃない。

牛や馬の糞尿の臭いが

漂うなかでオレたちのような

百姓が食う飯のことだ。

子どもをつくるなら3人がいい。
ひとりでもふたりでも、
親のひざを独占できる。
しかし3人になれば
競争が始まる。

新潟の雪を

なくすためにどうするか。

三国峠の山を削って平らにする。

土は海に埋めて佐渡と

陸続きにすればいい！

子どもの頃、オレはお袋の
寝顔を見たことがなかった。

夏は朝5時、冬は6時に

起きたけれども母親は
もう働いていた。

だからオレは

早寝早起きなのかもな。

昔は「駕籠に乗る人、担ぐ人、
そのまたワラジを作る人」と
言われた。

いまはクルマに乗る人も、
運転する人も、つくる人も
ほとんど大学卒だ。

いくら死にたくななくても、

人間は必ず灰になる。

ところが人間でも植物でも、

生物は劣性遺伝なんだ。

働かない、勉強しない奴は

親よりバカになる。

人間誰しも、若いときは

みんな偉くなりたいと思うものだ。

しかし、そう簡単じゃない。

経験も、知識も、素養もなくて

しゃべってばかりいるのは

誰も相手にしなくなる。

あれのオヤジは

新潟の副知事だつたが

息子は雪国の怖さを知らない

極楽トンボ。

風邪をひくから靴下

長靴、手袋を差し入れてやれ。

人の一生はやはり運だと思う。

実力があつてもダメなもののはダメ。

努力と根気、勉強

こういつたものが

運をとらえるきっかけになる。

吉田茂さんは佐藤栄作さんより

池田勇人さんのほうを

かわいがっていた。

人は自分より美男子ではない、

頭の悪いのがかわいい。

お前は今日からおじぎをされる側
ではなく、おじぎをする側に来た。

お前は図体もでかいし

態度もでかい。

さっきの会釈では話にならん。

角栄はいつからあのバカを

雇ったんだとなる。

石破君にもう決まった

女性がいるという。

誰だと聞いたたら丸紅の女性だと。

何ッ！丸紅？

しかし丸紅はいい会社だ。

ウン、私のことがなければ

もっといい会社だ。

ロッキードで多くの人間が

去っていった。世の中そんなもんだ。

でも残ってくれた人たちもいた。

地元の無名の支援者だ。

日頃、何も言わない人たちが

残ってくれた。私の宝だ。

生鮭なんてのはダメだ。

きれいなだけで誰も食わない。

それよりいなり鮭を出せ。

それからブリと大根の煮たやつだ。

あれはみんな食べるはずだ。

直接接してもらえれば、

田中がどうという人間か

必ず分かってもらえる。

ところがそうしない人も

いるんだな。

正面からちゃんと

接してもらえば分かるのに。

このごろの子どもものなかには
親に向かつて

「頼んで産んでもらった

わけじゃない」などと

バカなことを言う者までいる。

齡50になつた。

平均年齡70歳まで生きると

するなら、あと7300日。

刻むが如き人生だ。その限られた時

間のなかで私は任を果たす。

あなたには学歴もあるし
高級官僚だった時代の
人脈もある。
しかしオレには何もなし。
この道しかなかったんだ。

人は馬鹿にされている、だ。

踏まれても、踏まれても、

ついていきます下駄の雪。

若い奴に対し

ネチネチとやるのは大嫌いだな。

叱ったとしても、

次の人と会ったときには

もう忘れている。

君には負ける、

また会おうですよ。

ぼくは“一白の午”で

血液型はB型。

医学的に言うと陽性で、

楽観主義で、

屈託がないタイプです。

でもそれはあくまで

一面に過ぎないよ。

渡部、今日はオレが

頭を下げななきゃならん。

直紀をどうしても当選させたい。

そうしないと真紀子が

孫に会わせてくれないんだ。

少年時代、新潟で

現場仕事をしていたとき、

あるじいさんがこんな話をした。

「土方は一番でかい芸術家だ。

パナマ運河で太平洋と大西洋を
つなぐのも土方。

土方は地球の彫刻家だ」

原稿を書くときは30%の力だ。

90%の力を出す能力はない。

昔の名人が、木の看板に向かって

一気に字を書いた。

下のほうが残ったので

木を切ったらしい。

私もそれ式だ。

ぼくは日曜日に20枚くらい

揮毫するんですが、

選挙民に喜ばれるのはやっぱり

和ヲ以テ貴シト為ス」なんです。

何、花束だと。

小菅のことはオレが

一番よく知っている。

花などあそこでは役に立たない。

これから食い物を送ります。

カネや太鼓をたたいて

家にまで押しかけられたとき、

一番ちつちやい孫が「おじいちゃん、

あれなんなの」と聞くから

「おじいちゃんの応援団だ」

なんて答えていた。

4人の女を相手にするときには、

1人にカネをやり、

1人にハンドバッグをやり、

1人に着物を買って、

残りの1人をぶん殴れば

済んだが……。

私は荒っぽい医者ですよ。

足を切断しなくちや

いけない人には

「今日、お切りなさい」と

キツパリ言う。

半端な治療をして足を腐らせて

しまうようなことはしない。

雪と闘うのはロマンじゃない。

生活との戦いなんだ。

地方分散、一極集中の排除

というのは雪との戦いなんだよ。

川の上流と下流、両方の選挙民が橋を
かけて欲しいと陳情している。

田中角栄はまず大急ぎで片方に橋をか
ける。最初は片方に嫌われるが、
もう一方にも必ず橋をかける。

言ったことは実行するんだ。

本当の雄弁は

相手の心をとらえる。

聞く人が「今日は良かったな」と
思う話をする。

それが本当の雄弁というものだ。

方針を示すのが政治家の仕事だ。

役人は生きたコンピューターだ。

方針を示せない政治家は

役人以下だ。

戸別訪問3万軒、

辻説法5万回、これをやれ。

やり終えたら改めて

オレのところ来い。

いいか、政治家は

代理のきかない商売なんだ。

客と会うのが醍醐味じゃないか。

それが億劫になつたら

政治家を辞める。

政治とはつまり、
事を為すといふことだよ。

どんな発言をすれば

マスコミに気に入られるか。

大きく書かれるかと

考える人間がいる。

こうというのが一番悪い。

政治家としても大成しない。

政治には勝機を

つかむタイミング、

かけがえのない一瞬がある。

そのチャンスを

とらえなければダメなんだ。

農林省の役人は

コメ問題の権威かもしれない。

しかし、情熱がない。

田んぼのなかに入ったことも

ないような者が、

コメのことを分けるわけがない。

オレのところには

特ダネはないよ。

特オチした社から

恨まれたらかなわないからな。

人間は誰しもできそこないだ。

しかしそのできそこないを

愛せなければ政治家は

つとまらない。

そこに政治の原点があるんだ。

わが国の前途に

思いをめぐらすとき、私は一夜、

沛然として大地を打つ豪雨に

心耳を澄ます思いであります。

新聞で信用できるものが3つある。

死亡記事に株の値段、

それにテレビの案内欄だ。

この3つにウソはない。

遠い親戚より

近くの他人のほうが大事だ。

自分が金持ちでも近所隣が

貧乏では結局やっていけない。

みんなが良くなれば

自分も良くなる。

今日に至るまでに

さまざまなことがあつたにせよ、

私に福田君への怨念はない。

ないよ、それは。

ゴルフを1日3ラウンドやる

人間に怨念なんかあるものか。

女王さん、

ぜひ日本へいらしてくだわい。

私が東京競馬場に

案内いたします。

私は競馬の専門家では

ありません。騎士です。

「ガリバー旅行記」の主人公は
巨人ガリバーだ。

私の発想はガリバー的なんだ。

政治家にとって大切なのは
ものごとを鳥瞰的、
俯瞰的に見るということだ。

政治家というものは、

資質や能力と関係ないところまで

難関にぶつかるともある。

政治の世界はのし上がろうとして

すれば足を引つ張られる

世界なんだ。

スジの通ることなら

諸君に味方して

閣内でも強く発言するが、

不当な政治闘争は許さん。

オレは土建業のオヤジだ。

君らの主張には耳を傾ける。

いい政治というのは

国民生活の片隅にあるものだ。

目立たずつつましく

国民の後ろに控えている。

吹きすぎて行く風。

政治はそれで良い。

相手が立てなくなるまで

やっつければ、

敵方の遺恨は去らない。

徹底的に論破してしまつては

相手が救われない。

土俵際には追い詰めるが、

俵の外に押し出す必要はない。

日本の官僚制度は
ピラミッド型になっている。

大臣、次官、局長は

1年そこそこで変わるが

「窓口天皇」は何年もそこにいる。
人を変えないから硬直している。

人の悪口を言ったり、

自分が過去に犯した

過ちを反省せず

自分がすべて正しいとする

考え方は国のなかでも

外でも通用しない。

ブレジネフが「あなたは世界中の人の財布のなかまで知っている」と言うから、「日本人は貧乏なのでそうでないと言っかけていけない」と言っただよ。

人類にとって最後の問題は、
核戦争の問題だ。

核戦争というのは、自分だけが
勝つということはないんだ。

そうだろう。人類が
みんな死滅しちゃうんだから。

いまの若い者が総理大臣候補で
ぐざいますなんていつたつて、
総理総裁になつて何をやるんだ、
何ができるんだと。
そこところがハッキリ
してなきやダメだというんだ。

数億円のトンネルを作るなら
最低何万人の利用者が必要と
考えるのが官僚だ。

利用者が150人でも
欠かせないものは作る、
それが政治だ。

政治にはオール・オア・

ナッシングというのではない。

まず最善の策を考え、

次に次善、三善の策まで

考える必要がある。

戦争を知っている世代が
社会の中核にある間はいいが、
戦争を知らない世代
ばかりになると日本は
怖いことになる。

96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73
核戦争の可能性	イエスかノーか	政治と教育の分離	「窓口天皇」の問題	トドメを刺さない	吹きすぎて行く風	郵政大臣の一喝	政治家の難関	ガリバーの視点	女王と競馬	角福戦争	遠い親戚より近くの他人	信用できる記事	心耳を澄ます	人間を愛する	目白に特ダネなし	田んぼに入る勇氣	勝機を逃さない	一番悪い政治家	事を為す	代理のきかない仕事	選挙の神様	政治家と役人	雄弁とは何か

100	99	98	97
戦争を知らない世代	オールオアナッシング	トンネルはなぜ必要か	総裁になって何をするか